大浦湾と ダイビングチーム すなっくスナフキン

ダイビングチーム すなっくスナフキン　小室 裕樹（Komuro, Hiroki）

大浦湾は沖縄県名護市東海岸にある沿岸部10 km ほどの湾です（図１）．そこで活動をする「ダイビングチーム すなっくスナフキン」は地元の海好きおじさんを中心にダイバーが集まって結成されたチームで，“大浦湾で遊びたい！　記録活動と情報発信”をキーワードに2003年から活動してきました．ダイビングを楽しみながら写真や動画での記録を行い，情報発信として沖縄内外での写真展の主催，写真展を希望される方への写真パネルの貸出しなどの活動を行っています．また，2015年には念願であった大浦湾の写真図鑑が南方新社から発売されました．

大浦湾の魅力

大浦湾の魅力は小さな湾でありながら多様な環境に恵まれ，それに裏付けられた多彩な生物たちといえます．

大浦川から続くマングローブ，その先に広がる干潟では干潮時には何百ものミナミコメツキガニ（図２）やシオマネキ類などが現れ，奥の方には絶滅危惧種に指定されているトカゲハゼも姿を見せます．その先の湾南西部は泥地が続き，湾口近くでは60 m 以上の水深になります．この泥場で見られる生物はとても魅力的で，興味深いものばかりです．浅場にはスイショウガイが多くみられますが，一部の個体にはキクメイシモドキが定着しており，全体が覆われているとその姿はまさに歩くサンゴです（図３）．そこから少し水深を下げるとミナミウミサボテンがいたるところに顔を出し（図４），殺風景な泥場に花を添えてくれます．さらに南西に進むと泥場に少しガレが混じった場所がありますが，ここでは１月～２月頃の季節定で，３ m を優に超すマジリモクの林が現れます（図５）．これだけ大きな海藻の間を泳ぐ体験は沖縄ではなかなかできないのではないでしょうか．この辺りは泥とガレが混じりあう環境がいいのかウミウシも多いようです（図６）．ここから水深を下げた場所にはコモチハナガササンゴが集まる場所があります（図７）．基底に定着しないサンゴなので窪地に流れてきてしまうのでしょうか？　透明度が悪く薄暗い中ですが，娘群体を付けた個体も多く，成長している様子が見られます．

すこし湾中央部に進むと低質が泥から砂へ変わってきます．一見何も無いようですが，季節によって一面にクラゲムシやサカサクラゲが現れたり，春先にはかわいい手のひら型のカエデ

図１　大浦湾の位置．

図３　スイショウガイ．キクメイシモドキが定着している個体としていない個体．キクメイシモドキが全体に定着した個体は目の生えたサンゴが歩いているみたい．

図２　ミナミコメツキガニ．干潟で食事をしながら行進中．

図４　ミナミウミサボテン．泥場一面に生えている．この姿は昼のみで夜は引っ込んでしまう．

図５　マジリモクの林．この中を泳ぐのはなかなかできない体験．

コケムシが現れたりなど，季節による変化は大浦湾の中でも一番大きいかもしれません．

またナイトダイビングで砂地を潜るとそこはエビカニ類の宝庫です．日本初記録で当チームの代表の名前がついたニシヒラトゲコブシもここから見つかりました（図８）．

泥場，砂場を離れ汀間側が流れ込む湾南西側に移動するとそこは全く様子が変わってきます．変わってくるというよりは，沖縄でよく見る光景になるといったほうがいいでしょうか．

ミドリイシ類が一面を覆いつくす根や（図９），大浦湾のシンボル的な存在の巨大なアオサンゴ群集もあります（図10）．

このような小さな範囲に様々な環境がみられ，そこに居る多様な生物に出会えることが大浦湾の魅力で，いつ何度潜っても楽しませてくれます．ここでは書ききれなかった大浦湾の魅力は是非前述の書籍を手に取って感じていただけばと思います．

すなっくスナフキンの活動と思い

報道などで周知のとおり，大浦湾は米軍基地の移設予定地になっています．大浦湾が取り上げられる際，この基地移設問題と関連付けられて伝わることがほとんどだと思います．ただ，これまで書いた通り大浦湾は基地移設関係なく魅力的な海で，この楽しさや魅力が基地移設問題とセットになることで正しく伝わらないのは非常に残念なことだと考えてきました．すなっくスナフキンはこの考えから，写真展や講演などでは極力基地問題には触れず，純粋に大浦湾の魅力を伝えるようにしてきました．

多い年では年間10回以上の写真展を開催し，県外の団体への写真パネルの貸出も行っています．写真はただ眺めてもらうだけじゃなく，見て知って楽しんで欲しい思いからなるべく一枚一枚メンバーが手書きしたオリジナルコメントを添えています．当初写真展を始めたころは数十枚の写真から始めましたが，徐々に写真が増え，現在は700枚を超える展示になりました（図11）．

大浦湾の現状はかなり厳しいものになっており，残念ながら埋立てによって多くの環境が失われてしまうことになりそうです．できる限り大浦湾の環境が残ってくれることを願いつつ，これからも記録を続け，残し伝えられればと思います．

図６　プレウロブランカス・マミラートゥス．泥場にいる大きなウミウシ．この個体は20 cmくらいあった．

図７　コモチハナガササンゴの娘群体付き．右下には成長して零れ落ちた群体がみられる．

図８　ニシヒラトゲコブシ．大浦湾が日本初記録．すなっくスナフキンの代表の名前が和名についた．

図９　ミドリイシ群集．沖縄の他のポイントにも負けないくらい見事に成長中．

図10　アオサンゴ群集．アコサンゴのみでなく，上の方は様々なサンゴがみられる．

図11　写真展の様子．写真は大浦川から沖瀬まで環境ごとに陸⇒海の順に展示している．

書籍「大浦湾の生きものたち」

―琉球弧・生物多様性の重要地点，沖縄島大浦湾―

ダイビングチーム すなっくスナフキン編
A5判　128ページ　オールカラー
定価：2,000円＋税
約655種の生きものを，850点の写真でご紹介．